

地球環境2022

壊された生態系 回復を

自然破壊や生物種の減少が進む中、それに歯止めをかけるだけでなく、人間の努力で自然を回復させ、豊かなものにしようとの取り組みが進んでいる。国連は2021年から30年まで「生態系回復の10年」とすることを宣言、各国政府の積極的な取り組みを求めている。傷ついた生態系を再び取り戻すことができるのか。最新の動きを探った。

生息地の保全だけでは不十分

「種の絶滅など生物多様性の消失は生態系回復の10年」を宣言、各国政府の積極的な取り組みを求めている。傷ついた生態系を再び取り戻すことができるのか。最新の動きを探った。



湿地再生

豊岡市の休耕田

「原風景」復活へ
ゆったりと流れる川の周囲に、大小の湿地が広がり、数羽のサギが舞う。少し離れた水田には餌を採る1羽のコウノトリの姿があった。



失われたマングローブ林再生のため
植林に取り組み毛ルディの女性たち
2017年11月
中野野明さん撮影

自然再生事業の結果、再生された
加陽湿地とその周辺の風景。コウノトリをはじめ多くの生物を見かけるようになった。9月24日

兵庫豊岡市では人畜糞と
放鳥の結果、水田などによ
うに頻りに見かけるよ
うになった。8月

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

渡辺剛男・自然環境研究センター
上級研究員の話
生態系回復の10年は、生物多様性
条約締結国会議でのアフリカ
諸国からの提案がきっかけ
になって始まった。自然破壊に
歯止めをかけるだけでなく、豊
かにすることを目指すという
「ネーチャーポジティブ」を
実現するために重要な取り組み
だ。

生態系の回復は、気候変動
対策や生物多様性の保全、人
間の健康維持や食料問題の解
決、雇用創出など、社会が抱
えるさまざまな問題の解決に
貢献する。回復の対象となる生態系
の一つは、農地も含まれる。
農地開発は、森林破壊の主な
原因の一つだが、農業の手法を
変えて、生態系の回復に貢
献する農業を実現することも
大きな課題だ。

「回復の10年」の重要性を
認識し、日本政府も地域や民
間・市民と力を合わせて国内
外の取り組みを強化してい
く。

「計画可能な目標を掲げること
の達成にも貢献する」とし、加盟
国政府に、地球規模からローカル
なものまで、生態系再生に向けた

資金の拡大や科学研究の推進など
に取り組むことを求めた。
対象となる生態系は森林や海
藻や湿地も含まれる。
生物多様性条約事務局や世界保
健機関WHOなどの国際機関、
世界経済フォーラム、ドイツの電
力会社など20を超える組織が
パートナーとして参加を表明して
いる。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

〈随時掲載します〉

アフリカでは「緑の大壁」事業
過剰な土地利用や気候変動が原
因の干ばつなどで土地の劣化が進
むアフリカ・サハラ砂漠の南端地
域。東のシバチカサのセネガル
まで、大陸を東西に貫く長さ約8
千キロの「緑の大壁」を築こうと
し、生態系再生事業が進んでいる。

「グレート・グリーン・ウォール
プロジェクト」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

め、近く、世界各国から応募が
あつたものの中から10件の「フラ
ッグシッププロジェクト」を選定
する。

実施資金のための国際基金もつ
くる方針で、ドイツやフィンラン
ド政府が出資を表明しているとい
う。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

め、近く、世界各国から応募が
あつたものの中から10件の「フラ
ッグシッププロジェクト」を選定
する。

実施資金のための国際基金もつ
くる方針で、ドイツやフィンラン
ド政府が出資を表明しているとい
う。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

め、近く、世界各国から応募が
あつたものの中から10件の「フラ
ッグシッププロジェクト」を選定
する。

実施資金のための国際基金もつ
くる方針で、ドイツやフィンラン
ド政府が出資を表明しているとい
う。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

め、近く、世界各国から応募が
あつたものの中から10件の「フラ
ッグシッププロジェクト」を選定
する。

実施資金のための国際基金もつ
くる方針で、ドイツやフィンラン
ド政府が出資を表明しているとい
う。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

め、近く、世界各国から応募が
あつたものの中から10件の「フラ
ッグシッププロジェクト」を選定
する。

実施資金のための国際基金もつ
くる方針で、ドイツやフィンラン
ド政府が出資を表明しているとい
う。

生態系回復の10年に対する日本
国内の関心も認識もまだ不十分
だが、環境省の担当者は「国家的
に重要な取り組みなので、今後、
力を入れて取り組むたい」として

国が発行した加陽湿地の自然
再生のパンフレットで紹介され
ている。1960年の出石川
の写真を、コウノトリと牛、
農家の女性が川を利用してい
る。

2007年度に「出石川加陽地区
大規模湿地再生事業」に着手。休
耕地15haを買収し、湿地再生工事
を始めた。目指したのは写真のよ
うな「原風景」の復活だ。

川の流れを変えて緩やかに蛇行
して流れるようにしたり、山から
の湧水を引いたりといった工事の
結果、田畑が広がっていた地域に
大小の湿地が再生された。

湿地の中には川にすむ魚などが自
由に往来でき、繁殖場として使え
るようにしたものもある。

緑に覆われた川辺や湿地を見て
いると、ここが以前は田畑だった
とは想像もできない。

湿地にはコウノトリが飛来する
まじりになり、自然の風景に歩
近づいた。

加陽湿地を含む500ha余は18
年前、重要な湿地を保護するため
のラムサール条約の登録地に追加
された。

豊岡市は隣接する場所に加陽水
辺公園を整備し、環境教育の場な
どとしても活用。絶滅が心配され
る植物のフジバカマや大型のチョウ
ウ、アサギマダラの観察会など、
市民参加で湿地の保全と利用が進
んでいる。

共同通信編集委員 井田徹治

20年までに再生された土地の面積
は目標に達し、及ばないが、当初
は関連する11の国で始まったア
プロシエの参加国は20カ国以上に
拡大。中国を含めた国際的な支
援も提供されるようになり、生物多
様性保全だけでなく、貧困解消にも
貢献するとして注目されている。

21年1月に各国政府が参加して
開かれた「生物多様性のためのワ
シントンサミット」では、参
加国がプロジェクトに140億
余を拠出することに合意。国連の
生態系回復10年の主要事業として
も位置づけられ、事業の加速が期
待されている。

グレート・グリーン・ウォール
の主要事業の一環として、
モリタニアで進む植林事業
3月、中野野明さん撮影

資金不足や政治不安もあつた

